

会計研究における「理論」とは何か
－理論性と制度性－

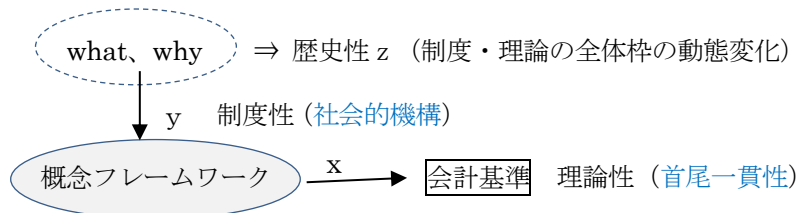
駒澤大学 石川純治

2016年7月2日 京都大学シンポジウム

議論のために (サンプル)

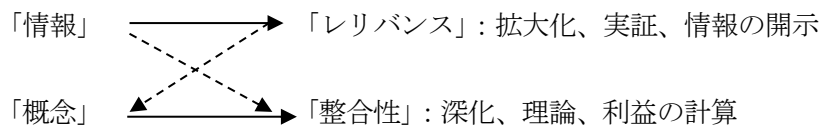
- 構造と機能、そして整合性
機能優位と整合性問題、ヨコとタテの整合性
 - メタ理論という「理論」
制度性のメタ理論、「メタ」をどこに見出すか
 - 情報レリバンスと概念整合性
両者はコンパティブルか (参考図2) (以上、石川[2016b]より)
 - 概念フレームワークの理論性と制度性
現代会計への座標軸、x軸とy軸の現代的な位置、古典と現代 (参考図1)
 - なぜOCIに着目するか－矛盾と調整 (参考図3)
OCI現象と現代会計、現代会計の特徴的現象、利益計算と情報開示の矛盾・乖離
(以上、石川[2016a]より)
- …など

参考図1：概念フレームワークの制度性と理論性
－3つの基軸と位置－



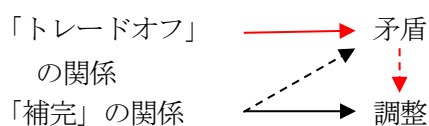
(会計理論学会第30回大会報告、石川[2016a])

参考図2：情報レリバンスと概念整合性－両者はコンパティブルか



(「日本版概念フレームワークの立脚点」、石川[2006])

参考図3：矛盾の出どころトレードオフ関係と補完関係



(「慣習、文化、言語、そして会計」、石川[2016b])

● 〈議論に関する文献一覧〉

- 石川純治[1983] 「構造としての会計科学」『福岡大学商学論叢』第27巻第4号。
———[1988] 『情報評価の基礎理論』中央経済社。
———[2006] 「日本版概念フレームワークの立脚点」『駒澤大学経済学論集』第37巻第2・3・4合併号。
———[2010] 「会計基準の整合性分析をめぐって」『駒澤大学経済学論集』第42巻第2号。
———[2014a] 『揺れる現代会計』日本評論社。
※———[2014b] 「会計研究のあり方」『経理研究』第57号、中央大学経理研究所。
———[2016a] 「OCI現象と現代会計」会計理論学会『会計理論学会年報No.30』。
※———[2016b] 「慣習、文化、言語、そして会計」『駒澤大学経済学論集』第48巻第1/2合併号(予定)。
———[2016c] 「資産除去債務と減価償却—何が矛盾か、その出所は—」HPブログ(6月15日)。
藤井秀樹[2007] 『制度変化の会計学』中央経済社。
———[2015] 『入門財務会計』中央経済社。
———[2016] 「会計理論とは何か」関西学院大学商学研究会『商学論究』第63巻第3号。
米山正樹[2008] 『会計基準の整合性分析』中央経済社。

● 加法性についての議論：貨幣的評価の背後にある数学的構造

- ※石川純治[1978] 「歴史的元価主義の公理的構造」『大阪大学経済学』第28巻第1号。
※———[1981] 「井尻理論における方法と対象」『会計』第119巻第4号。
(以上、※印は参考資料として郵送・添付)

● 参考：ブログでの補足資料 (HP参照) →拙稿[2016b]

- 1) 『日本経済新聞』2015年7月22日付「経済教室」(松井影彦)、9月2日付『朝日新聞』(加藤尚武)
- 2) 拙著『情報評価の基礎理論』(中央経済社、1988年)第10章補論4「分配の公正とゲーム理論」(286-289ページ)からの抜粋：
協力ゲームの解(分配の公正をめぐって)、ゲーム理論とエイジェンシー理論(ヨコ関係とタテ関係)
- 3) 藤井秀樹『制度変化の会計学』(中央経済社、2007年)からの抜粋：研究の方法と本書の構成、『日本経済新聞』2002年1月4日付「経済教室」(青木昌彦)
- 4) 藤井秀樹『入門財務会計』(中央経済社、2015年3月)からの抜粋：はじめに、慣習としての会計ルール

Q1：なぜ会計研究にすすんだのか？ 経済学など他の学問は

Q2：会計研究のやりがいとは？ 何が魅力なのか？